

平成23年6月5日（日） 大井総合支所（子育て世代） 参加者44名

10:00 開 会

- ・市長あいさつ
- ・自己紹介（総合政策部長、福祉部長、教育総務部長）
- ・テーマに対する説明（総合政策部長）

参加者：複合施設の中身はこれからの討議の中で決めて行くことでよいか。大井中央公民館で赤ちゃんリズムなどをボランティアでやっているが部屋が狭い。大井地区では赤ちゃんと一緒に遊べる場所がない。中央公民館には児童室があるが狭いし、大人も一緒に利用しているので、衛生的にも問題がある。家庭的な雰囲気のある土足であがらない場所がほしい。この地域に赤ちゃんと一緒に遊べる広いスペースが欲しい。いつでも誰が行っても相談できる場も欲しい。『あったかふじみ野』と市長も言っているので子育てのしやすい環境づくりをお願いしたい。気軽に利用できる子育て支援施設をお願いしたい。

市 長：現在は、素案的なものはまだ決まっておらず白紙の状態です。市民検討組織やタウンミーティング等での意見、議会からの提言等により決めていきたいと考えています。子育て支援は私の政策の代表的なものであり、赤ちゃんが遊べる施設、私はそのような施設は個人的に必要と思っています。児童センターも東側地域にはありますが、西側地域には無いので欲しい施設ではありますが、これからの公共施設のあり方を考えたときに、必要最低限、何が必要なのかという観点が大切と考えています。生産年齢人口の増加を図るためには、この街で子育てしたいと思えるような施策が必要であり、そのための施設も必要であると考えています。大変貴重なご意見だと思いますので、今のご意見も議会等に提案していきたいと思っています。

参加者：花の木中で行われたタウンミーティングに参加した。そのときもお聞きし、複合施設の面積は2,400㎡から3,000㎡ということだが、このスペースだと、やはり限りがあると思うので、何を入れるか選択が必要になる。このような建て替えは今後そうあることではないので、これを千載一遇のチャンスと捉えて、財政の面もあると思うが、4、5階建てという選択肢もあり得ると思うがいかがか。市長がよくおっしゃるように、持続可能なふじみ野というと、子どもたちにつけを残したくないという気持ちも分かるが、決断する時には大きな決断力をもって4、5階建てを検討してもらいたい。

市 長：確かに建て替えとなるとそうチャンスは無いと思います。私達の時代も次の世代等を考えると、ここは非常に難しい選択を迫られている。有利な起債でやるべき時期にやるべきことをやらないで、次の世代に先送りすることもつけとなってしまいます。5階建ての建物も不可能ではないが、学校

の耐震や大規模改修、ごみ処理施設等今後多大な費用がかかるものもあります。支所では現在の状況でも駐車場が狭い。駐車場も今と同じ台数以上を確保したい。あるタウンミーティングでは、万が一のとき復興の拠点となるのは庁舎であるというご意見もありました。震災以降、市民の皆さんの間でも防災意識が非常に高まっていることを感じます。

参加者：複合施設の中身について、フクトピアや西口サービスセンターを利用したがやはりこちら側の地区にも、フクトピアのような施設が欲しい、必要である。フクトピアのような施設なら、大きい子から小さい子まで遊べるスペースがとれます。中央公民館は非常に使いづらい。児童館、保健センター、図書館など一緒にして大型の複合施設にしたらどうか。駐車場も確かに少ないので、イベントがある時は循環バス増便するなどの工夫をしたらどうか。子育て世代が必要な時にさっと利用できる施設が必要で、鶴ヶ岡コミュニティセンターなども、とても使いづらい。

市長：やはり市政の提案や個人的にもこの地域に子育て施設をとという意見をたくさんいただいています。市としては総合振興計画、3か年実施計画の中で、計画的に事業を進めていますが、どうしても突発的に生じる事業がある中、優先順位を決めてやっていかなければならないと思っています。例えば、保健センターは効率的に一箇所体制がいいとしても、検診スペースは必要と考えています。市民の皆さんの声からは児童センターが必要という意見が多いという実感があります。

参加者：以前の座談会でも複合施設の中に保育所を入れたらどうかという提案をした。今回の地震で更に保育所は大丈夫なのかと不安に思った。今後も近いうちに大きな地震が起きる可能性が高いと言われている中、そういったことも考えるのがいがか。それから、保育所に通ってなくても小さな子どもが避難できる場所が必要ではないか。いざという時、体育館などに避難するのではなくて、おむつの常備があるような施設が欲しい。

市長：以前のご提案、覚えています。この地域は行政ゾーンですので、確かに一元化で保育所を入れるという提案は、単独で耐震補強などをするよりも効率的であると思います。

参加者：フクトピアのような総合的な子育て施設が欲しい。今、学校のクラスが減少していて、放課後の子どもたちの様子が変わってきている。ランドセルを置いてから、学校で自由に遊ぶ子どもが少ない。親としては、安心して放課後遊ばせる施設や、地域のお年寄りと一緒に交流できる拠点となるような施設が欲しい。地域の人たちとの繋がりの中で子どもたちを育ててい

けるアイデアを出してもらい、その様な観点で制度化して欲しい。

市長：私も同じ様な考えです。あったかいふじみ野、みんなが家族的である様な、安心して遊べる環境を整える事が必要と思います。以前視察で学校の一角にお年寄りがいるスペースがあり、世代間交流を図っていた。そんな施策があってもよいと思いました。

参加者：例えば、4、5階建てが可能なら、図書館、保健センターなど一つにまとめて欲しい。空いたところは売却するとか、駐車場にしたらどうか。支所の窓口業務について、合併直後はどちらでもできたが年数の経過とともに、だんだんサービスが低下。窓口業務はどちらでも同じ様にやって欲しい。たとえば、子ども手当て一人親家庭の受給者証の関係で不便なところがある。申請も本庁、受け取りも本庁。こちらで申請だけでもできたら助かる。

市長：公共施設の適正配置計画も踏まえて、合併市なので同様の施設が一つずつある中、重複する施設をどうしていくか、今回の整備をきっかけの一つにまとめる等考えることもできる。窓口業務については、確かにその通りで、現在、改善に向けて検討しています。

参加者：病院に勤務している。小児医療救急の必要性を常日頃から感じている。小児医療の問い合わせが非常に多い。救急車を呼んでいいのかなど。ふじみ野市では夜間は駒林の夜間診療に行っていると思うが、車の無い家庭では救急車を呼ぶのもためらっている人が多い。昼間であればいろいろな手段でなんとかなると思うが、夜間は難しいので特に夜間における小児救急の充実をお願いしたい。

市長：小児医療の問題は市長の集まりでもどこでも、多く叫ばれています。しかし、今の時代では公立病院の設置は勇気が要ります。医師の確保も難しい話を聞いています。救急車もタクシー代わりに使われると、本当に必要な時に使えないということになりますし、地元で小児救急を受けられるような環境づくりを進めていきたいと思っています。2市1町連携して考えていきたいと思っています。

参加者：病院がなくても、専門的なところに相談できるようなところがあれば助かる。埼玉医大も一時的に費用が必要になる。夜間、電話で相談にのってくれるような窓口があれば、例えば複合施設の中にそういう機能として保健センターを入れるアイデアも検討してほしい。

市長：特に初めてのお子さんだと余計に心配になるのは理解できます。#8000番

も利用して欲しい。医療機関と連携を取りながら、病中・病後の緊急サポート業務を今年度から実施します。

参加者：親子リズム、絵本の読み聞かせなどのボランティアをやっているが、複合施設の内容にはいろいろな制限があると思うが、先程の話のように子育て関連の施設ができたらいいなと思う。保育所と一緒に入っていれば、園長が来てくれて保育のプロとしての話しをしてくれる。保育所に入れないうちも、自由に遊べる場所があればみんなが行くと思う。遊び方もわからない親子が現代では非常に多い。絵本も何がいいのかわからない。そういうお母さんたちが気軽にそのような子育て支援スペースを利用できると変わっていくと思う。フクトピアのような図書室もつくっていい絵本も必要。異年齢が遊べて母子が触れ合えるフクトピアのような構想がとてもよいと思う。選択に当たっては、そこが一番最優先だと思う。

市長：日頃からのボランティア活動に感謝します。どの世代に力を入れるかは難しい選択だが、いつでも子ども達のことを思い、力を入れなければいけないのは、昔も今も普遍的なことだと思います。障がい者のための施設も入所施設が当市にはありません。予算配分をするには、その辺も考えなければなりません。先ほどからの保育所について増設計画があるのなら、既存の保育所を複合施設に入れて、空いたところを売却なりで別のサービスにまわすこともこれからの時代は必要であると考えます。本日の皆さんのご意見を参考にしていきたいと思えます。

参加者：3、5歳の子どもがいる。耐震化の話で、庁舎が震災の時崩れたりしたら、そのとき私達にとっては何が困るのか、具体的に例を出して言ってもらえれば、意見も出しやすい。

複合施設の話の中で、交通手段の話は重要なこと。今のフクトピアも事業の時には道路上に駐車している車が目立ったりして、決して駐車場が足りている状態とはいえない。公共施設は駐車場がきちっと確保されていないと利用しにくい。新しく整備するのならその辺を見通した中で、立体駐車場はできないのか。それと、いま小学校の教室が空いているようだが、そういう場所を保育所として利用する訳にはいかないのか。

市長：庁舎が倒壊した時何が困るのかについて。例えば電気が使えなくなるとマンションの水が出なくなると思う。市役所の中には様々なデータがあり、バックアップはあるが、機器が使えなければ、利用できなくなります。まず最初にするのは、情報収集でありその情報を集約するのも本部です。集まるところが無ければそれすらできません。被災状況により救出作業等も発生します。やはり拠点となる施設がなければそれもできません。

駐車場の確保について、今回の支所整備においては、今と同等か数台増える見込みです。また、将来的には、もともと不足しているのもっと増やしたいと思っています。先程の話にも循環バスが出ていたが、今後においては効果的なあり方を考えていくべきだと思っています。今の状況ではもったいない。学校の教室の話では、習熟度別授業を行ったりして空き教室を利用していますが、法的には問題ないことだと思っています。しかし国庫補助対象施設の場合は、30年経過しないと転用がむずかしいという事があります。

参加者：ハード面よりもソフト面での話をしたい。共働きで学童保育を利用しているが、預かり時間が足りない。仕方なく社会福祉協議会のふれあいサポート等利用している。それが、この4月に値上がりして時間当たり800円だったため、実際には15分単位で計算してもらえて600円程度払えばよかったが、時間単位になってしまったため、手数料と併せて1000円になってしまい、とてもつらい状況になってしまった。是非、学童保育の預かり時間延長をお願いしたい。今回の値上がりは上福岡に合わせたようだが、社協も通知文一枚で値上げしてしまった。ハードの面では児童センターを希望します。

市長：ハードの面で児童センター希望の件はわかりました。ただ、学童保育は利用しない市民もいます。時間延長の話については、利用者の受益者負担もお願いしたいと考えます。この9月から中学校まで通院費を含み医療費無料になります。これも使う人使わない人がいるのが現状です。そんな中で、なにを持って公平とするかという話しでは、受益者負担もご理解いただきながら、高齢者のサポート等これから発生するであろう施策に充てていきたいと思っています。

参加者：保育園で砂遊び、どろんこ遊び等をしている。複合施設での保育園の提案があったが、外で遊べる環境があったほうが、子どもたちの発達にもよい。そのへんも考慮して欲しい。

市長：川口市の駅前ビルの例はあったが、それは必要性があったから入れたのだと思います。いろいろな方法論を踏まえ、リスク等にも配慮しながら、子育て施策やお年寄り施策等に対して、皆さんの血税をどのように活用していくのか、本日のタウンミーティング等でのご意見を参考にさせていただきたいと思っています。ありがとうございました。

市長：(閉会あいさつ)